

東校舎

大正の終わり頃から昭和にかけて、学区に人口が増え、児童数も多くなりました。そこで、昭和3年に校地が広げられ、昭和11年に鉄筋3階建ての校舎が建てられました。鉄筋3階建ての校舎は、市内でも少なく、外から見てもすばらしいと言われていました。現在、市内では、当時の建物として残っているのは、筒井小学校のみです。

この校舎は、現在、東校舎として使われており、窓の上の部分が丸みを帯びているつくりや、木張りの廊下が、当時の様子を物語っています。



校歌

本校の校歌を紹介します。

「そこひしられぬ筒井つつ 筒井の水のかれぬごと たえず朝夕いでいりて ゆめおこたりそ学び子ら」

「底が分からないほど深い井戸があり、筒井つつと呼ばれている。この井戸の水が常にかれないことと同じように、朝から晩まで、決しておこたることなく、学び続けましょう。こどもたちよ。」という意味だと聞いています。



清澤満之先生

文久3年(1863)、名古屋黒門町に生まれ、筒井小学校(第1回卒業生)で学び、神童と呼ばれていました。

その後、京都・東本願寺育英教校から東京大学・大学院を首席で卒業し、25歳で京都府尋常中学校の校長となりました。

自ら厳しい求道を課し、仏教の革新に努め、明治34年(1901)、東京へ移転した真宗大学の初代学長に就任しました。西洋哲学に精通し、独自の宗教哲学を確立しました。絶対他者の「精神主義」を提案し、明治の親鸞と言われました。



筒井商店街

本校の南には、筒井商店街があります。様々な店が並び、地域の方々に親しまれています。

毎年、6月はじめには、天王祭があり、商店街には多くの人々が集まります。



天王祭

6月1・2日に、天王祭が行われます。町内の無病息災を願う天王祭が江戸期から行われ、今も、からくり人形をのせた山車が町内を練り歩き、多くの人々でにぎわいます。

この天王祭は、名古屋市無形民俗文化財に指定されています。筒井小学区には、神皇車(じんこうしゃ)と湯取車(ゆとりぐるま)という2つの山車があります。神皇車の屋根・高欄部分が朱色に塗られているのは珍しく、舞を踊った巫女が鬼の面をかぶり、龍神に早変わりするからくりは、神功皇后三韓征伐の折、龍神が現れて波をしずめた故事によります。

湯取車は、現存する名古屋の山車では最も古く、安部晴明の前で神子が両手に持つ笹束で湯をふりかける仕草をし、湯の花と呼ばれる紙吹雪が吹き出すからくりは、お湯で厄災を清める「湯取り神事」を表します。



BACK